

Hachioji 5th Junior High School

八王子市立第五中学校

学校だより



第5号

令和8年8月25日（火）

【トピック】

- ・表紙 令和8年度 学校評価と全国学力・学習状況調査
- ・令和8年度 学校評価アンケートの結果(2ページ、3ページ)
- ・令和8年度 全国学力・学習状況調査の結果(第3学年)
国語科・数学科



日本遺産

JAPAN HERITAGE

【教育目標】 心身共に健康 人・地球との共生 未来社会への知性

令和8年度 学校評価と全国学力・学習状況調査

令和8年度 1学期末に保護者・地域の皆様に御回答いただきました、学校評価につきまして、御協力ありがとうございました。学校だより2ページから3ページに御回答頂いた学校評価の結果等について掲載いたしましたので、御確認下さい。令和8年度1学期の学校評価では、学校経営から教育活動、いじめ防止対策や学力向上等、多岐に渡り7割から9割で肯定的な評価を頂きました。今回の学評価では、ご要望や御意見がゼロ件でしたので、結果の掲載はグラフを中心に項目ごとに整理させて頂いています。今回の学校評価の成果や課題については、2学期以降の教育活動や令和9年度の教育課程の改善に活かせるよう、全教職員でできることを考えて参ります。

学校だよりの4ページには、第3学年で実施した令和8年度全国学力・学習状況調査における本校の結果(今回は国語科と数学科、次号で英語科を掲載)を掲載しています。本校では、令和7年度後半から現在まで、授業改善を柱に「学びの共同体」を研究テーマに掲げ、全教科等で3人から4人の学習班で、生徒同士が学び合いを深められるよう授業を改善して参りました。その成果が、今回の学力調査の結果から生徒の学力の定着や学力の向上が見られています。さらに、1学期に実施した八王子市で実施している八王子市独自の学力調査においても、第1学年から第3学年で生徒の学力が定着しているだけでなく、学力が向上していることが見て取れます。八王子市の学力調査については、個人票を1学期末に返却していますので、御確認下さい。令和8年度後半も、小中一貫教育を通して、ゆるぎない教育活動を進めて参ります。

第五中学校
グループ

第五中学校は、第一小学校と第四小学校とともに、
小中一貫教育を合同一体で行っています！

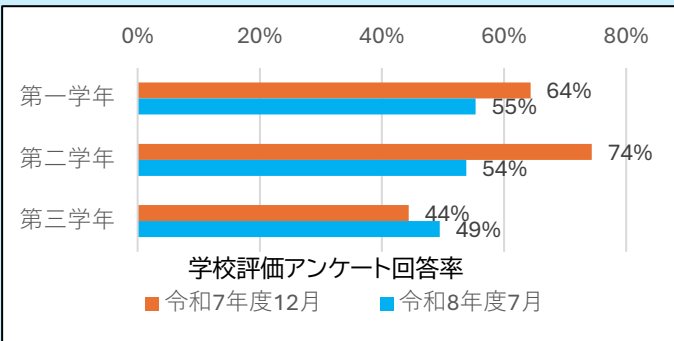


■ 発行 八王子市立第五中学校
■ 住所 八王子市明神町4丁目19-1
■ 電話 042-(642)-1633

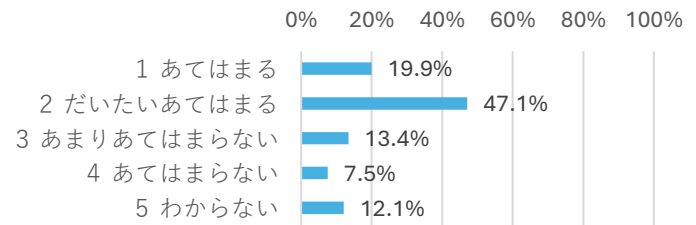


学校ホームページ
二次元コード

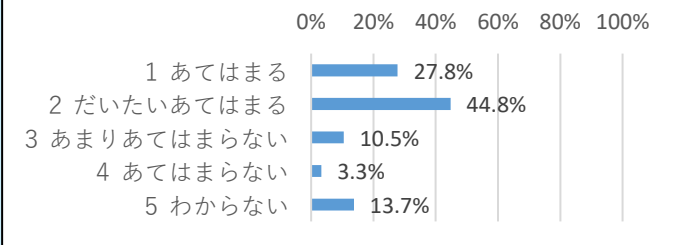
学校評価アンケートの結果



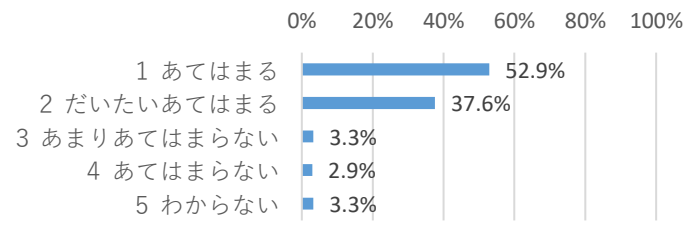
1 学校の経営方針の理念『最上位目標である学校教育目標に帰結する教育活動を地域とともに実現する学校』を知っている。



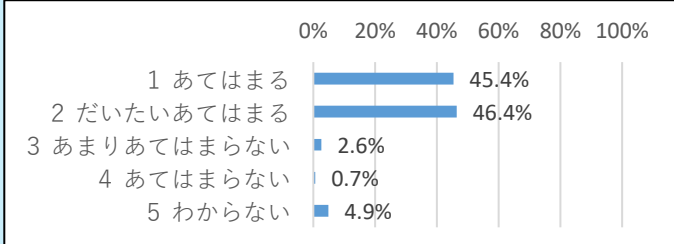
2 学校は特色ある取組(「義務教育9年間を見通した小中一貫教育の取組」「学力向上の取組」)を行っている。



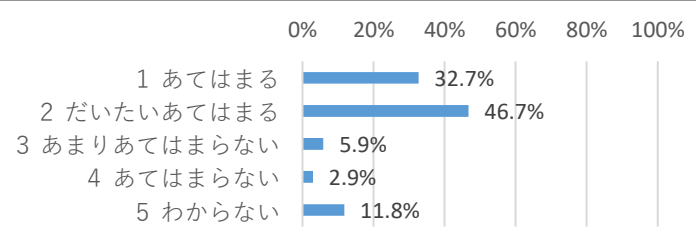
3 本校が第一・第四小学校と合同で行う取組(「行事への参加や運営参画」「小中一貫教育の日」)を知っている。



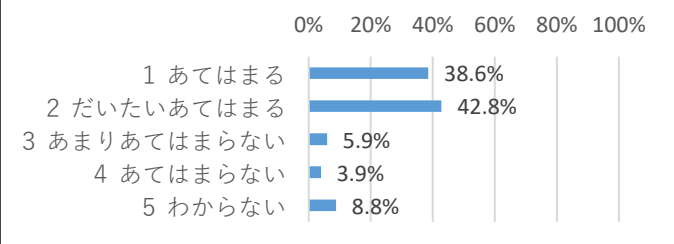
4 学校は、子どもたちが安心・安全に過ごせるように、避難訓練などの安全管理に取り組んでいる。



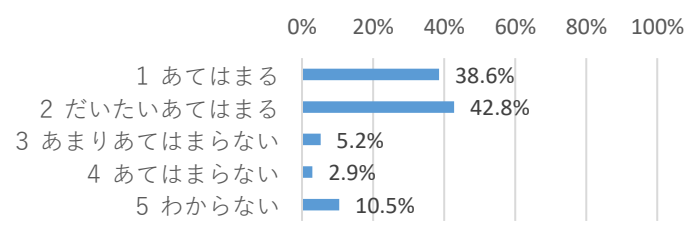
5 学校は、「特別の教科 道徳」を含む教育活動全体を通して、子どもたちが自分の大切さ、他の人の大切さを認め、行動できるような教育をすすめている。



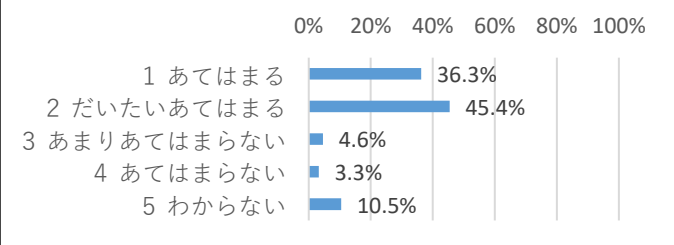
6 学校は、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等、いじめを許さない学校づくりに組織的に取り組んでいる。



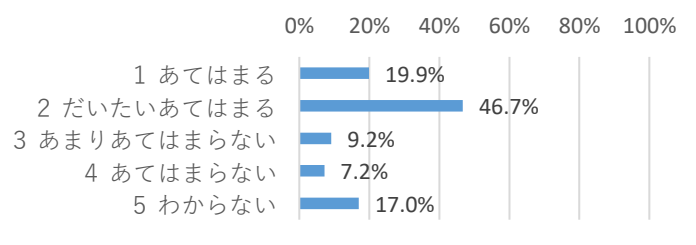
7 子どもの学級では、授業や学校行事に意欲的に取り組むよう、指導が行われている。



8 学校は、授業において、説明、板書、話し合い活動、ICT機器(1人1台の学習用端末等を含む)の活用などの工夫に取り組んでいる。



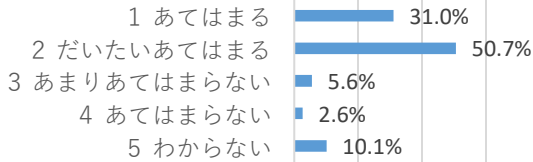
9 学校の学習活動に対する評価は、適切・公平である。



学校評価アンケートの結果

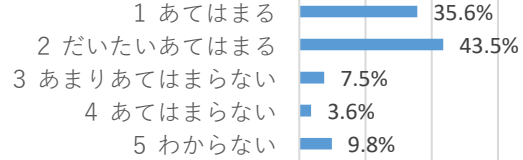
10 学校は、子どもたちがよりよい学校生活を送れるように、生活目標を設定したり、きまりを守ったりする指導を行っている。

0% 20% 40% 60% 80% 100%



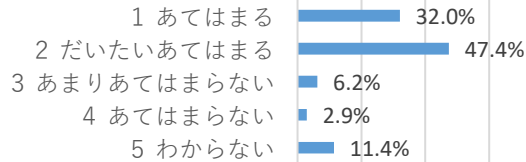
11 学校が、「第五中学校版 キャリア・パスポート」等を用いて、子どもの生き方や将来についてのキャリア教育を行っていることを知っている。

0% 20% 40% 60% 80% 100%



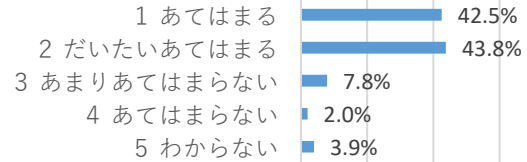
12 学校は、学習環境の整備に取り組んでいる。

0% 20% 40% 60% 80% 100%



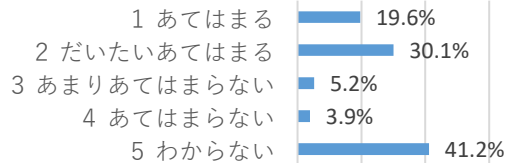
13 学校は、保護者に対して、学校だよりやホームページ等で適切に情報を提供している。

0% 20% 40% 60% 80% 100%



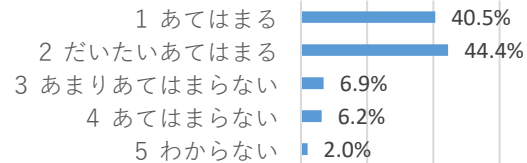
14 学校は、特別支援教育(特別な支援を必要とする子どもに対しての教育)に取り組んでいる。

0% 20% 40% 60% 80% 100%



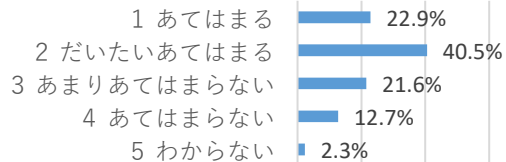
15 子どもは、楽しく学校生活を送っている。

0% 20% 40% 60% 80% 100%



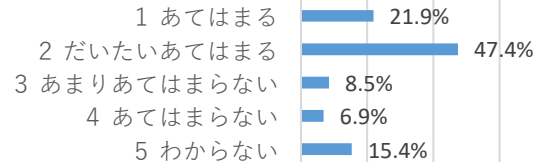
16 子どもは、家庭学習をする習慣ができています。

0% 20% 40% 60% 80% 100%



17 学校の子どもの学習活動に対する評価は、適切・公平である。

0% 20% 40% 60% 80% 100%



【学校評価から見る成果と課題】

第1回の学校評価アンケートから見られる成果として、17の質問項目の中で、14の項目で7割から9割が肯定的な評価を頂いた。特に顕著な肯定的な回答として前回のアンケートから肯定的な回答が得られたものでは、3の項目「本校が第一・第四小学校と合同で行う取組(「行事への参加や運営参画」「小中一貫教育の日」)を知っている」や7の項目の「子どもの学級では、授業や学校行事に意欲的に取り組むよう、指導が行われている」、9の項目「学校の学習活動に対する評価は、適切・公平である」であった。特に学習評価については、令和8年度から評価評定説明会をオンデマンド形式を取り、保護者の方が何度でも聞くことができるようにしたこと、授業を担当する教師が年度初めに丁寧に評価等について丁寧に説明できたことが理解促進につながったものと考えられる。

課題としては、14の項目の「学校は、特別支援教育(特別な支援を必要とする子どもに対しての教育)に取り組んでいる」、16の項目の「子どもは、家庭学習をする習慣ができています」に見られる。特別支援教育については例年、本校では「わからない」の回答が多く、特別支援教育とは何か等、広報や周知が必要であると考え。もう一つの課題として、家庭学習の習慣が「あまりあてはまらない」、「あてはまらない」が34%程度であることから、生徒が主体的に家庭学習や個別最適な学びに態度等が向かっていない状況や課題が見られる。生徒一人ひとりが学びについての興味や関心、将来の目標等が主体的に学びに向かう原動力となることから、「学びたい」と思える環境づくりが学校だけではなく家庭でも取り組むことが重要であると考えられる。

令和8年度 全国学力・学習状況調査の結果(第3学年)

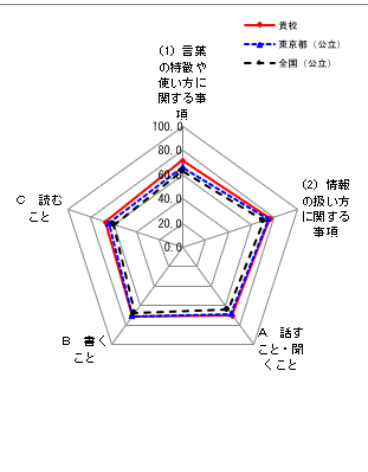
【国語科】

集計結果

対象生徒数		八王子市立第五中学校		東京都（公立）	全国（公立）
		164		89,243	841,873

分類		区分	対象問題数 （問）	平均正答率（％）		
				全校	東京都（公立）	全国（公立）
全体			15	70	68	63.9
学習指導 要領の 内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	5	71.6	66.2	63.0
		(2) 情報の扱い方にに関する事項	1	76.2	74.6	70.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0			
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	8	69.9	68.1	63.9
		B 書くこと	8	70.5	70.5	67.4
		C 読むこと	8	66.9	64.2	59.7
評価の観点	知識・技能	6	72.4	67.6	64.2	
	思考・判断・表現	9	69.1	67.6	63.7	
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	9	78.5	78.5	72.7	
	短答式	8	66.1	58.5	55.8	
	記述式	8	50.4	50.0	45.5	

<学習指導要領の内容の平均正答率の状況>



第3学年国語科全体の平均正答率は 70%と、東京都平均と全国平均の両方を上回る結果となっている。着実に本校の国語科では学力の定着が進んでいることが分かる。

中学校学習指導要領の内容別内訳では、「思考・判断・表現」における「読むこと」の正答率が66.9%と最も低く、その他の内容は69.9%から76.2%の正答率ある。また、問題形式においては「記述式」の平均正答率が50.4%と最も低い状況である。また、問題によっては無回答率が10%を超えるものがある。このことから、文章の構造や内容を正確に理解したり、それを基に自分の考えを形成したりすること、問題に粘り強く取り組むことに課題が見られると考える。全体的には基本的な学力の定着は見られるものの、今回の調査からは「文章の構造や内容を正確に理解したり、それを基に自分の考えを形成したりすること」等の課題改善を進める。

本校では、「学びの共同体」を基盤とした授業づくりを実践している。以前は教師の説明を一方的に聞き、一人で考えてもできなかったことが、3人から4人の学習班で、他者の知識や考えを取り入れながら考えを広げたり、深めたりする環境が整っていることから、分からないことを共有し、話し合うことで解決することができる。さらに「粘り強く、自己調整しながら学習に取り組む」ことも可能となるため、学習班による学びを継続することで、一人では諦めていた問題に対しても根気強く挑戦しようとする意欲が育まれるものと考えられる。平均値だけでは判断せず、一人ひとりの学力の定着、達成度等を見極めながら授業ができるメリットとを活かしてさらに改善する。

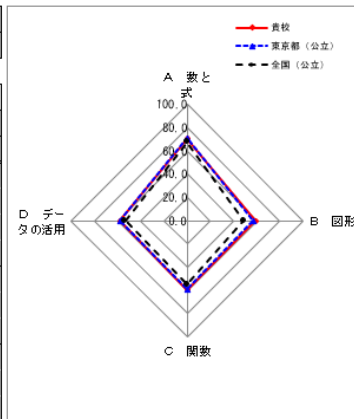
【数学科】

集計結果

対象生徒数		八王子市立第五中学校	東京都（公立）	全国（公立）
		164	89,279	842,491

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			全校	東京都（公立）	全国（公立）
全体		16	62	62	57.0
学習指導要領の 領域	A 数と式	5	70.4	71.0	67.8
	B 図形	4	59.0	56.9	48.7
	C 関数	8	59.6	59.2	54.8
	D データの活用	4	57.9	57.7	53.5
評価の観点	知識・技能	12	67.9	67.4	63.0
	思考・判断・表現	4	45.9	45.8	39.1
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	8	68.7	63.1	59.3
	短答式	9	67.6	68.8	64.2
	記述式	4	45.9	45.8	39.1

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



第3学年数学科の全体に平均正答率は62%であり、全国平均と比較するとプラス5ポイント、東京都平均と同率となった。生徒一人ひとりの状況等を確認すると、本校生徒の半数が全国を上回り、東京都においても同率であった。従来課題となっていた「無回答」の生徒の割合は、全国平均値を下回った。東京都との比較では、平均値から僅差の2問程度で上回る設問が見られた。特に選択式問題における無回答率はゼロ%であり、最後まで問題に向き合う姿勢の向上が見られた。

一方で、記述式問題の正答率は全体的に低い傾向が見られた。文章を正しく読み解く力や問題の状況をイメージする力に課題が見られる。国語科でも述べたように、大切なことは平均値だけで状況を判断することなく、生徒一人ひとりの学力の定着、達成度等を見極めながら授業ができるメリットとを活かしてさらに改善する必要がある。

数学科については、生徒一人ひとりの実態に応じて、個別支援を授業中や補習教室等で基礎基本の定着等が身に付けられるように個別学習の充実を図る。また、全体的な課題として、表現力や言語化のスキル育成を図れるよう、「問を正しく理解し、思考の過程を整理して、根拠を明確にしながら他者に伝える力」の育成に向けてさらに「学びの共同体」を継続して進め、授業改善を行う。さらに、数学的な記述、表現する力を向上させるため、生徒一人ひとりの思考の可視化が円滑にできるよう、ノートやワークシートにおける「途中式等」の記述指導を日常の授業で徹底する。